БОЛОВСРОЛ, СОЁЛ, ШИНЖЛЭХ УХААН, СПОРТЫН ЯАМ

ХӨДӨЛМӨР, НИЙГМИЙН ХАМГААЛЛЫН ЯАМ

モンゴル国障害児のための教育改善プロジェクト　ニューズレター

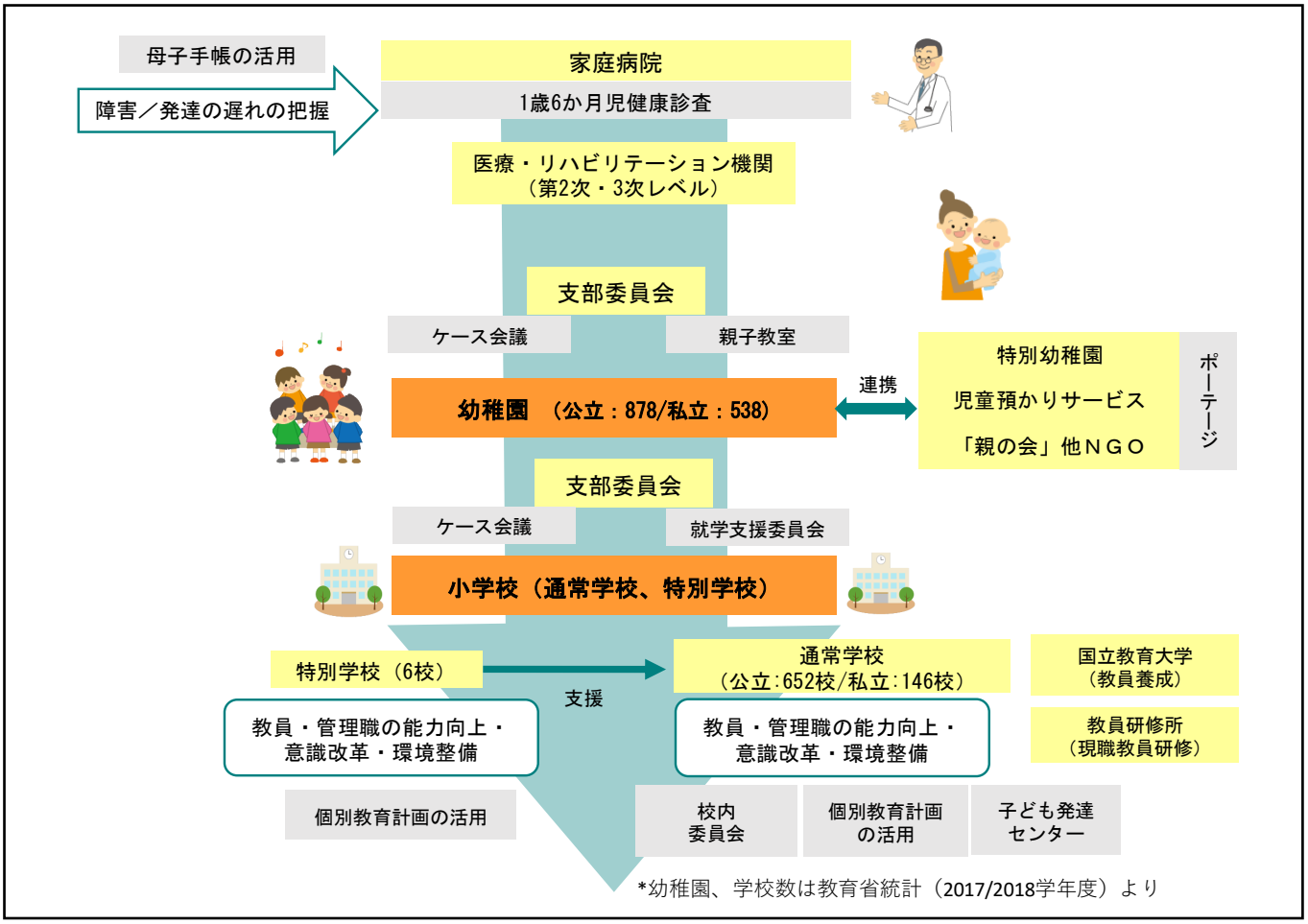
2019年3月

第4号

子どもへの総合的な支援

「障害児のための教育改善プロジェクト」は、2015年8月に開始されました。当プロジェクトは障害の早期発見、子どもたちに対する発達支援や教育のモデルを構築することを目的としています。プロジェクトではこのようなモデルを構築するための様々なパイロット活動をウランバートルのバヤンゴル区、フブスグル県、そしてパイロット校にて行ってきました。

この間、モンゴルでは、2016年2月に「障害者の権利に関する法律」が制定されました。同法律にて示された諸課題を解決するため、2017年12月には「障害者の権利・参加・発達支援に関する国家プログラム（モンゴル政府令第321号）」が国会にて承認され、障害者の権利に対する市民の意識を高めること、政策に障害者の視点を反映させること、障害者を対象としたサービスを改善することなどの政府の方針が打ち出されました。プロジェクトでは、下の図にあるような子どもへの支援体制が構築できるよう、約3年半にわたり取り組んできました。



これらの試行活動の結果は、早期発見・発達支援・教育の支援体制および関係する機関の役割を示した「障害児のための包括的な発達支援ガイドライン」としてとりまとめられ、労働・社会保障大臣、教育・文化・科学・スポーツ大臣、保健大臣合同令第A/304・A/699・A/460号 により2018年11月15日に承認されました。プロジェクト終了まで残りわずかですが、**すべての子どもたちがニーズに合った発達支援や教育を受けられるように**なることを目指して、活動を続けていきます。

☆メール：jica15start@gmail.com　☆ウェブサイト：http://www.jica.go.jp/project/mongolia/013/index.html
☆電話：976-9424-0702／976-8634-0702　☆Facebook：https://www.facebook.com/jicastart/

障害のある子どもの就園･就学の実現に向けて
ー支部委員会での事例検討会議ー

プロジェクトでは、パイロット地域の支部委員会とともに、支援が困難な障害のある子どもの支援方針や計画を立てる事例検討会議を定期的に開催しています。ここではWHO国際生活機能分類（ICF）の概念を踏まえ、アセスメントと支援計画作成に取り組んでいます。

事例検討会議で重視していることは主に3つです。1点目は、その子どもが社会の中で他の子どもとともに学び、育つことを支援の目標とします。例えば、「幼稚園に通えるようになる」、「家族と買い物に行く」等を目標として設定し、そのために必要な取り組みを検討していきます。2点目は、子どもの生活全体を理解し、支援を考えることです。障害にのみ着目するのではなく、子どもの長所や家庭環境、住んでいる地域の状況等、子どもを取り巻く環境全体を捉えることに努めます。その上で、障害への対応（治療やリハビリテーション）だけではなく、家族や社会への働きかけも支援のひとつとして検討します。3点目は、支部委員会を中心に関係機関の連携を図ることです。すでにパイロット地域では、検討した支援計画を実行するため地域の関係行政機関、学校関係者との連携実績が生まれています。

支部委員会での事例検討会議を通じて、一人でも多くの障害のある子どもの就園や就学が実現することを願っています。



事例検討会議で作成した支援計画の例

作成日：2018年8月

名前	M	本人の願い	家族と買い物に出かけたい
年齢	5歳1か月	保護者の願い	他の子どもと同じように成長させたい、自己表現ができるようになってほしい
性別	男		

1年後の目標	小学校に楽しく通っている

	1年後の目標に到達するための課題／ニーズ	支援目標	達成時期	支援の内容（頻度、時間）	担当機関／担当者
1	自分の考えや要求を伝えることが難しい	日常生活で必要なことを手話で伝えることができるようになる	2019年6月	週1回、手話の指導を受ける	支部委員会教育担当 特別学校
2	体に合った車いすがない	体に合った車いすで移動できるようになる	2018年10月	リハビリテーションセンターを通じて車いすを支給する	支部委員会福祉担当 リハビリテーションセンター
3	アパートにスロープがなく外出が困難	アパートにスロープがつけられる	2018年11月	地元自治会の協力でスロープを設置する	支部委員会 自治会
4	学校側が障害児受け入れに関し躊躇している	就学先の学校の校長、学習マネージャーがM君のことについて理解する	2019年7月	• M君の就学について、支部委員会、幼稚園の教員が学校関係者に情報共有する • M君と保護者が学校を見学する	支部委員会教育担当 幼稚園 小学校

自閉症児を持つ保護者向けのハンドブックの作成

保護者や支援機関、医療職のみなさんに、自閉スペクトラム症について理解を深めていただくために、このハンドブックを作成しました。

「第1部：自閉スペクトラム症理解のために」では、自閉症の診断基準、症状、長所や強み、支援機関等を紹介しています。「第2部：モンゴル自閉症協会会員からの質問への回答」では、就学前のお子さんを持つ保護者からの29の質問に対する回答と、就学期のお子さんを持つ保護者からの30の質問に対する回答をまとめています。

本冊子はプロジェクトのウェブサイトとFacebookページからダウンロードできます。ぜひご活用ください。



支援が必要な子どもを学校全体で支援する取り組み－校内委員会－

プロジェクトのパイロット校に行くと、障害のある子どもの担任が一人で悩みながら指導法を考えていたり、保護者や子ども本人が困っていることを学校に伝えられなかったりする状況を目にすることがありました。就学できても、十分な支援が受けられずに学習する意欲を失くしてしまったり、周囲の子どもたちから、からかわれたりするケースもあります。

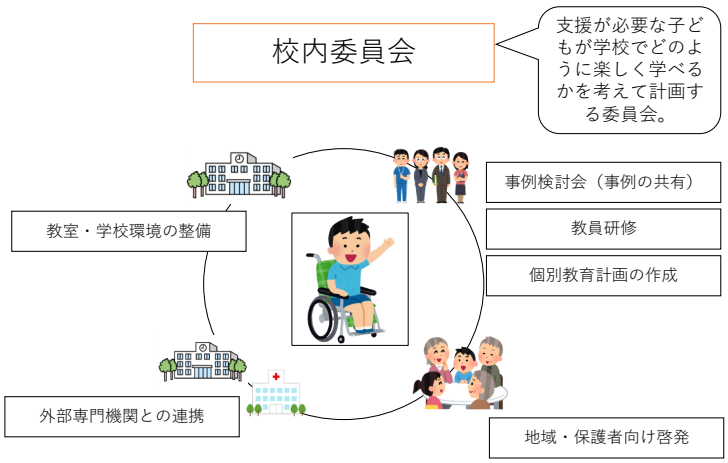
学校に求められる支援は子ども一人ひとり違ってきます。この指導法を使えば全員が勉強できるようになる、というような特効薬はなく、個々のニーズに応じた支援を考えていくことが必要となります。学校全体で関係者が協力して支援が必要な子どもへの対応策を考えていくために、プロジェクトではパイロット通常学校において校内委員会を試行しています。校内委員会は、支援が必要な子どものリスト作成、支援内容に関する協議、インクルーシブ教育に必要な教員研修や地域住民向けの研修会の開催などの役割を担います。校内委員会のメンバーは、学校管理職のみならず、必要に応じて保護者会の代表やホロー/ソムのソーシャルワーカーなども含めるとよいでしょう。メンバーの中で調整役となる人を1名任命し、会議の手配やメンバーへの連絡などをするようにします。会議で決定した内容は必ず他の教員たちに伝えるようにしましょう。

校内委員会の役割

- 支援が必要な子どもを特定する。
- その子どもたちの実態を把握する。
- 一人ひとりに必要な支援内容を協議し、計画する。
- 計画した内容が実施されているかどうかをモニタリングする。
- 必要であれば、外部専門機関との連携をとる。
- 教員研修や保護者・地域住民向け研修会を開催する。
- 校内で事例検討会を開催し、教員たちの共通理解を図る。

校内委員会のメンバー（例）

- 校長
- 学習マネージャー
- ソーシャルワーカー
- 小学部指導法研究会のリーダー
- 中学部の教員
- 学校医
- バグ/ホローの担当者
- 管轄している教育課/教育局の担当者





フブスグル県にある2つのパイロット校では、2018年4月に校内委員会を組織しました。校長令により、メンバー・役割・年間計画を決め、活動をしています。2018年5月には第1回目の会議を開催（右上の写真）。調整役となったソーシャルワーカーがメンバーへの会議の呼びかけや会場の準備を行いました。第1回目の会議は、支援が必要な子どもを特定し、その子どもへの支援方針を決定することが目的でした。会議の前に、ソーシャルワーカーが各担任から支援が必要な子どもについて情報収集をし、リストを作成しました。会議当日はそのリストをもとに、どんなことが課題になっているのか、どんな支援が必要なのか、個別教育計画を作成するかどうかについて協議をしました。会議で話し合った内容は、その子どもの担任にも知らせます。

校内委員会を組織したことにより、支援が必要な子どもたちを担任以外の教員たちも気にかけるようになるとともに、保護者との連携が強化されました。また、見た目ではわかりにくい発達の遅れや学習上の課題などを抱えている子どもについて、家庭環境や教室での様子などを複数の教員で話し合うことができるのも、校内委員会のメリットです。

ミニ･プロジェクト（第2回）の取り組み

プロジェクトでは、子どもたちの特別な教育ニーズに合った様々な教育形態の効果を検証し、全国に普及し得るモデルを開発することを目的に、小規模なパイロット活動（ミニ･プロジェクト）を実施しました。2017年10月から2018年6月まで、3件のミニ･プロジェクトを実施しましたのでそれぞれの内容を簡単に紹介します。

「障害は成長の妨げではない」（障害のある子どもたちのための課外活動）

実施団体	ホブド県ジャルガラントソム第7学校
プロジェクト概要	校内の1教室を子ども発達センターとして整備し、第7学校に通っている障害のある子どもたちが音楽やダンス、手工芸の課外活動に参加できるようにした。課外活動は保護者の協力も得ながら実施した。 文化祭やスポーツ大会、校外学習などに障害のある子どもも平等に参加できるように配慮し、児童生徒間の相互理解を深めた。

「就学前年齢の子どものインクルーシブ教育プロジェクト」

実施団体	モンゴル国立教育大学附属第249幼稚園
プロジェクト概要	幼稚園に通うことができていない障害のある子どもを対象に、週1回のグループ教室を実施した。また、通常学級でも障害のある子どもを受け入れ、国立教育大学の教員などによる研修を通じて指導法を改善した。

「障害児のための早期介入プログラムの教材作り」

実施団体	NGO「聴覚障害の教育」
プロジェクト概要	聴覚障害のある子ども及び知的障害のある子ども向けに、単語や文章を手話･イラスト･キリル文字で示した学習カードを作成し、協力校で試行した。 1) 聴覚障害児向け手話の単語カード 2) 聴覚障害児向け手話の文章カード 3) 知的障害児向けジェスチャーの単語カード

インクルーシブ教育についてのビデオ教材

インクルーシブ教育について少しでも多くの教育関係者に学んでほしい、興味を持ってほしい、という願いから、インクルーシブ教育についてのビデオ教材を制作しました。このビデオ教材は教員研修所が実施している基本研修の事前オンライン学習として活用されており、オンライン研修のIDとパスワードを持っている方は全員視聴することができます。また、IDを持っていない方でも、JICAモンゴル事務所のYoutubeからビデオを観ていただけます。全9回の講義ビデオに加え、ビデオの内容を紹介した「はじめに」と振り返りのための「まとめ」のビデオがあります。講義ビデオは3つのモジュールに分かれており、各モジュールの最後の確認テストで理解度を確認できるようになっています。

教員研修所ウェブサイト　http://esurgalt.itpd.mn/

JICAモンゴル事務所ウェブサイト　https://www.youtube.com/user/JICAmongolia/videos

	講義名	講師
	はじめに （内容の紹介）	教員研修所専門官 Ch. Jargal
1. 障害のある子どもの教育を取り巻く環境		
第1回	障害とは何か？	モンゴルDETフォーラム B. Enkhnyam
第2回	国際的な潮流（サラマンカ声明、障害者権利条約、インクルーシブ教育）	モンゴル国立教育大学　E. Munkhbat
第3回	モンゴルの法律･国家プログラム･関連する組織	教育省一般教育政策局専門官 B. Gereltuya
2. インクルーシブな学校づくりに向けた体制づくり		
第4回	校内支援体制 -校内でできる支援内容 -校内支援委員会 -事例紹介（フブスグル県）	フブスグル県教育文化局 D. Baasansuren
第5回	個別教育計画の理解 -個別教育計画とは何か -個別教育計画の作成方法	第25特別学校 専門教員 M. Batmunkh
第6回	基礎となる環境の整備と合理的配慮	教員研修所専門官 Ch. Jargal
3. 障害特性の理解		
第7回	障害特性の理解 -子どもの発達･知的障害･ダウン症･脳性まひ-	第70特別学校 専門教員 B. Enkhtuya
第8回	8-1視覚障害の子どもの特性 8-2聴覚障害の子どもの特性	第29特別学校教員　N. Burmaa、 M. Ariunzul 第116特別学校 元教員 D. Khorloo
第9回	学習の遅れや行動に課題のある子どもの理解と対応について	モンゴル国立教育大学 D. Battsengel
	まとめ	教員研修所専門官 Ch. Jargal

プロジェクトは2019年6月末で終了します。モンゴルにおいて全ての子どもに適切な発達支援と質の高い教育が提供されるよう、関係者のみなさんが協力していくことを期待しています。